

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

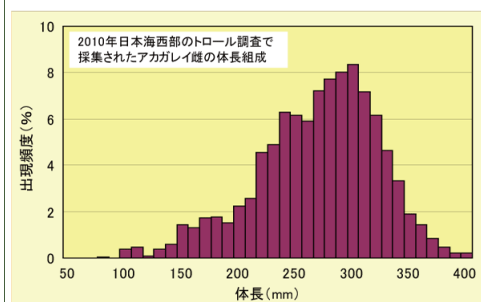
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 20歳
成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、京都府沖の50%成熟体長は雌25cm、雄17cm
産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は粟島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~900m)
食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者: 幼稚魚は不明であるが、成魚の捕食者はいない

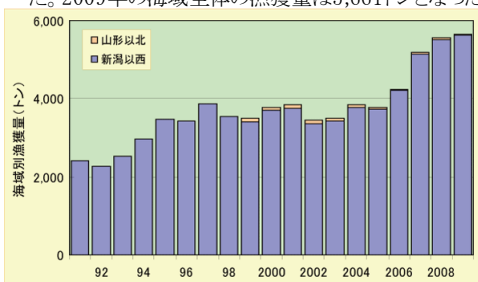


漁業の特徴

日本海のアカガレイの90%以上は沖合底びき網または小型底びき網で漁獲されている。残りは刺し網による漁獲である。底びき網漁業はアカガレイの季節的な移動に合わせて、分布域全体で行われる。

漁獲の動向

1991年以降の新潟以西の漁獲量を見ると、1992年に2,281トンと最低となった後増加し、1995年以降は3,000トン台で推移していた。卓越年級群が漁獲加入した2004年以降の漁獲量は増加傾向にあり、2009年は1991年以後で最高となった。海域全体の漁獲量が把握可能な1999年以降を見ても、その動向は新潟以西を見た場合と差がなかった。2009年の海域全体の漁獲量は5,661トンとなった。



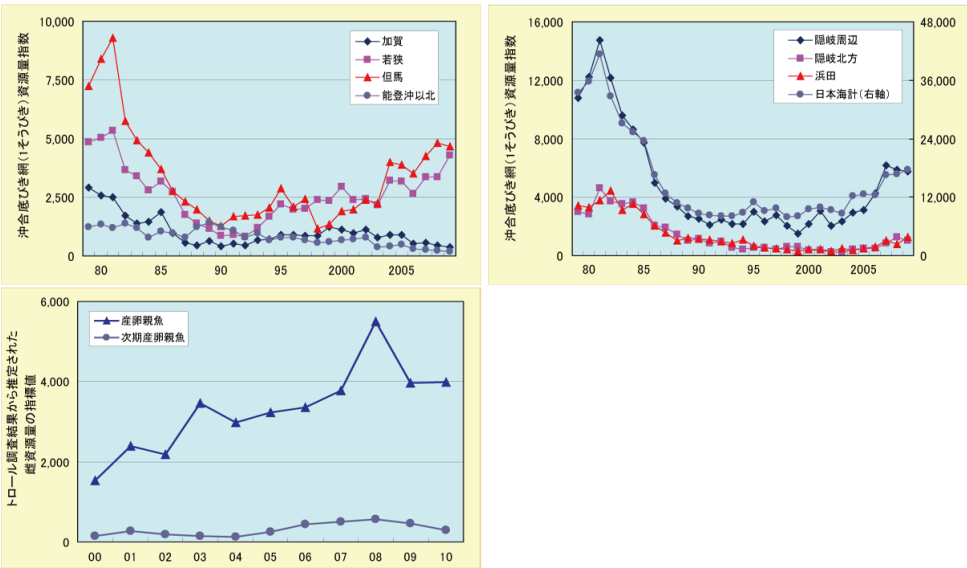
資源評価法

沖合底びき網の統計値(資源量指数)の推移および日本海西部海域で行われている着底トロールの結果(面積密度法で計算した資源量の指標値の推移)から資源評価を行った。

資源状態

沖合底びき網の統計値(資源量指数)の推移を見ると、近年は良好な値を示しており、2009年は過去20年で最高の17,550となった。海域別に見ると、2001年級群が多く存在する若狭沖、但馬沖、隠岐周辺で、2001年級が漁獲され始めた2004年以降の数値の増加が顕著である。しかし、2010年5~6月に日本海西部で実施されたトロール調査結果から得られた資源量指標値(資源量、資源尾数)は、資源尾数は過去5年で最も少なく、資源量では2006年に次いで低い値となった。また、加入を見ても2001年級群並の豊度をもつ年級群は認められず、2009年の加入状況も良好とは言えなかった。





管理方策

沖底統計などの漁業データは概ね良好な値を示していることから、日本海西部海域の資源状態は良好であると考えられる。しかし、アカガレイは成熟すると成長が著しく鈍ると考えられており、2001年級群の多くの個体は既に成熟し、今後は2001年級群の成長による資源量の増加を多くは見込めない。また、新規加入量をみても、2001年級群並に豊度のある年級群は存在せず、今後資源尾数を大きく増加させる要因は無いと思われる。沖合底びき網の有効漁獲努力量を指標として見ると、漁獲圧は低下傾向にあるが、今後も今以上に漁獲圧をかけることのないようにし、親魚を中心とした現存資源を保護しつつ、有効に利用すべきであると考えらる。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	4,900トン	0.9Cave3-yr	—	—
ABCTarget	3,900トン	0.8・0.9Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 資源状態は良好である
- 漁獲圧は高い状態ではない
- 今後、資源尾数・資源量を大きく増加させる要因は見当たらない

管理方策のまとめ

- 漁獲圧は現状以下に留める
- 親魚を中心とした現存資源を保護しつつ、有効に利用することが重要
- 富山以北では漁獲圧を下げるなどの措置を講ずることも必要

執筆者: 廣瀬太郎

資源評価は毎年更新されます。